

財団だより

第159号

2019.9

多摩川



ミサゴ (全長54-63cm、翼開張157-174cm) (日本野鳥の会データ)

秋鮎と野鳥

写真・文 大野 章 (川崎市多摩区在住)



ミサゴの鮎捕食

初秋から11月にかけて、多摩川の鮎の産卵期です。魚形が大きく整い、まるまるとして、野鳥の格好の餌です。鮎を狙う野鳥は、カワウとサギ類（コサギ、ダイサギ、アオサギ等）が中心で、嘴（くちばし）で捕まえます。大きく元気な鮎を飲み込むのはなかなか難しく、結構時間がかかります。更に通常はボラ、コイ等の大きな魚を捕まえるミサゴ（トビと同大の大きな猛禽）も、この時期は鮎も狙います。ミサゴは上空から魚を見つけ、時速100km超の猛スピードで急降下し、足指で魚を鷲掴みして捕まえます。足で鮎を掴んで、悠々と食事場所に飛ぶミサゴの姿に出会えるのは、多摩川散歩の醍醐味です。



ダイサギ

目次

- | | |
|---------------------------------------|------------------------|
| ■ 巻頭言……………2 | ■ 財団からのお知らせ……………10 |
| ■ 多摩川散歩……………4 | ■ インフォメ/多摩川……………14 |
| ■ 多摩川に学ぶ……………5 | ■ ヘタレサイクリスト多摩川を下る ……22 |
| ■ 連載4 橘樹縣道盛土案の攻防……………6 | ■ 2020年度助成研究募集のご案内…24 |
| ■ ニヶ領宿河原堰改築20年
アニバーサリープロジェクト……………8 | ■ 読者コーナー……………26 |
| | ■ 事務局より……………27 |

巻頭言



釣りをすればわかる！多摩川の魅力と影

東京海洋大学 客員教授
公益財団法人 東急財団 選考委員
美しい多摩川フォーラム・アドバイザー

奥 山 文 弥

多摩川のやや上流、羽村に居を構え 27 年が経った今も、多摩川で釣りを続けています。思い出せば父親の転勤で上京し、身近に自然がなかったのを求めて足を運んだのは多摩川の御岳渓谷でした。まだ中学生でした。当時下流は死の川と呼ばれるほど汚れていましたが上流は綺麗でした。その後、将来東京に住み続けるなら多摩川流域に住みたいものだと思います。

多摩川下流の魅力を私に伝えてくれたのは、私の釣り人生の師匠の故・西山徹さんでした。後に TV で釣り番組が始まったときにキャスターを務め全国的に有名になられたのでご存じの方も多と思います。西山さんは多摩市に住んでいて 1988 年の暮れ「奥山くん、来年の初釣りは多摩川でコイ釣りをしようよ。」と誘われました。汚れたイメージを持っていたので乗り気がしませんでした。翌 89 年の正月、群れをなして泳ぐコイの姿を見て驚き、さらにそのコイがフライ（毛バリ）にヒットし強引な力に感動しました。「な、凄いだろう？」と西山さんがニヤリとしたのを今でも忘れることができません。

それから多摩川通いが始まりました。カナダやアラスカにはサーモン釣りがあり、東京にはコイ釣りがあるのだ。と都市の釣りにプライドを持つようになりました。源流と呼ばれる最上流地域小菅、丹波山、日原などにも何回も出かけましたが、とても素敵なお水源地、自然林が広がり、美しい溪流魚ヤマメやイワナも生息しています。上流から下流まで釣りという手段で多摩川の楽しみが繋がっています。



有名ルアーソウルシャッドに食いついた怪魚と呼ぶべきニゴイ（登戸）



源流域のフライフィッシング（日原）



トリコロールミノで釣れた奥多摩湖上流の美しい魚はヤマメ（小菅）



IGFA フライフィッシング女子 2kg クラスで世界記録に認定されたコイ 8.4kg。なんと 80cm もあった（福生）

現在、多摩川からコイを含む IGFA（釣りのギネスのような協会・国際ゲームフィッシュ協会）公認の世界記録は 8 つも生まれています。これは多摩川の魚類の生産力の豊かさを物語っています。

下流の多摩川の水は一頃に比べると大変きれいになったと言われています。一度羽村堰で取水され、その水の量は 1/3 以下になります。昭島市やその下流にいくつもある污水处理場からの処理水が合流するために水量は増えますが、その処理水は私たちの糞尿や家庭排水を高温処理した水ですから、排水口直下の川の水温は真冬でも 20 度以上あります。

これは温排水と呼ぶべき水です。魚達にとっては多摩川温泉であり、冬でも暖かく、冬眠の必要がないのです。故に多摩川の魚類の成長がいいことも否定できません。

それらの水は、残念ながら臭いがします。この臭いは本来の多摩川の水にはありません。人が水を利用したあとに着くものです。さらに大雨が降って処理能力を超える汚水が処理場に入るとオーバーフローと言ってそのまま垂れ流しになることもあるそうです。透明度が増しているのが綺麗に見えますが、まだ化学的には汚染されているので、水遊びや泳ぐ方は十分気にするべきでしょう。多摩川の河川水の化学的汚染については東急財団の助成金による研究でも明らかにされています。(過去の研究発表参照)

人間の生活と地球の未来を前向きに想像した時、近い将来この処理水も高度処理がなされ水道水並みに消毒されていない自然にやさしい水が排出されるようになったり、汚水から分離された残廃物は優秀な肥料として都市近郊の農家で使用され、私たちに還元される日も来るでしょう。水温に関しては空調利用することも考えられます。そんな日が必ず来ると信じています。

日本人の生活は川とともにあると言っても過言ではありません。人の生活優先と言われてしまえば仕方ありませんが、やりたい放題の時代は終わりました。20世紀は世界的に見ても破壊の世代でしたが、21世紀は作り直す世代にしたいものです。私たちは釣りが好きなので、やはり多摩川に大小の魚がたくさんいて欲しいのです。

できるだけ自然に対してローインパクト（圧力の少ないこと）にする方向をとれば、きっと自然も許してくれることでしょう。

地球温暖化が叫ばれてから早20年、環境がよくなっている場所は世界中どこにもありません。しかし多摩川を見ている限り、希望はあります。これだけ多くの人が流域に住んでいるにもかかわらず、この川の生命力が復元されたのです。そして維持されているのです。これからもっとよくなっていくでしょう。そんなに遠くない将来、この大都会の川にサクラマス（海へ降りてサケのように大きくなった魚）が大量遡上し、青梅でサーモンウォッチングということも夢ではないのです。小河内ダム（奥多摩湖）ができる前、サクラマスはそのさらに上まで遡上していたそうですから。

多摩川には魚類学や、自然科学のネタがたくさん眠っていると考えられます。釣りという知的遊戯を通じて多摩川で遊び、もっと多くの人に知っていただきたい。多摩川流域の水辺で利用されていない場所は広い範囲にあります。こんなに大きな資源を利用しないなんてもったいないではありませんか。

今後は川を熟知する釣り客が増え、川から情報発信もさらに増え、なおかつ河原における人との出会いや、人間関係がよくなって、釣り人が増えたから川が安全で楽しくなった、よくなったと言われることを望んでいます。高齢者と子供も接点を持つにも釣りという趣味は最適です。そして「多摩川へ釣りに行こう」と小中学校の先生が安心して言うてくれるようになればいいと切に願っています。

人が利用して再生し作り変えられたサイボーグリバーとも言える多摩川。水槽のように濾過器とヒーターを兼ね備えた特殊な川ですが、それ故に適応した自然が周りにたくさんあります。そんな中で魚など生物も豊かであるという事実を知った上で、今回は多摩川を再認識していただければ幸いです。



時にはウエイダーを履いて水の中に入り魚との距離を縮めて親しみながら釣りをする(稲城)



フライフィッシングで大物がヒットした(福生)

多摩川散歩

多摩川源流大学から



多摩川源流大学事務局
NPO法人多摩源流こすげ事務局
東京農業大学非常勤講師

石坂 真悟

SDGsのセミナーを開催しました

去る6月22日に「多摩源流の森で学ぶSDGsとESG投資」というタイトルで勉強会を開催いたしました。

皆さん、この2つのキーワードご存知だったでしょうか？私も、全くわからずただ何となく紙面で見かけたりすることはあったのですが、内容までは詳しく理解はしていませんでした。

簡単にこの2つのワードについてご説明すると

- ・SDGs（持続可能な開発目標）は、2016年から2030年までの国際目標として定められ、【誰一人取り残さない社会】を実現するために、「持続可能な開発」として17のゴール・169のターゲットから構成されています。

- ・ESG投資とは、「環境（Environment）、社会（Social）、企業統治（Governance）」に配慮している企業に投資を行うってことです。今では欧米を中心に浸透していますが、今後日本でも拡大していく傾向にあります。

SDGsのゴールの中には、「陸の豊かさを守る」や「水の安全」、「パートナーシップで課題を解決していく」などまさに小菅村や多摩川流域で活動している団体の皆さんにも当てはまる項目があるので、ぜひ一度SDGsについて紹介している外務省のHPをご覧くださいければと思います。

今回、NPOこすげとしてこの2つのキーワードについて勉強会を行うことになったのは、いままで小菅村は多摩川源流の村として「水源の森を学び、多摩川の源流の水を体感する多摩川源流体験」や「間伐体験や森林空間を活用した企業研修、企業の社会貢献活動の一環として「企業の森」を実施するなど、様々な活動を展開してきました。その中で、私達としても、体験活動や地域づくり活動をよりブラッシュアップすることで、より多くの方に活動を提供できる機会を創出することや、源流や山間過疎地域で社会貢献したい企業にキャッチアップしてもらおう狙いがあり、まずはそのキーワードについて理解を深めるといことで開催しました。

セミナーを開催した当日は、梅雨真っ只中で、雨の様な曇りの微妙な天気でしたが、予定していた小菅川源流の雄滝の森散策の時は雨もふらず、しっかりと苔むした森を堪能することができました。

あいにく間伐体験は実施できませんでしたが、参加者の皆さんと「いま自分ができること」「企業・団体としてできること」などについて意見交換して頂きました。みなさんの団体でもぜひこの機会に「SDGs」に関りのあるものについて考えてみてはいかがでしょうか？



持続可能な社会のために、個人として何ができるか考えます

小菅村イベント情報

○第11回 SUBARU 多摩川源流トレイルラン

毎年村民の人口と同じくらいのランナーが、多摩川源流の山々を駆け巡る秋の一大イベントがこの多摩川源流トレイルラン大会です。

今年は自動車メーカー SUBARU に協賛頂き、より一層充実した内容で大会を盛り上げてくれます。

出場しなくても当日は道の駅こすげを中心に、トレイルラン用品の販売やその他物販、村内ではソバの花やコスモスの花が見頃の時期となっています。

日 時： 9月8日（日）

スタート： 10時 小菅の湯まえ



ランナー目線のゴール直前！

○10月27日（日）大地の恵み祭り

収穫の秋、食欲の秋は、道の駅こすげむらへ！村のなかでとれた野菜を物産館前で販売いたします。

当日は朝採れ野菜や、村の食材を使った料理など多数出展しております。また山で採れたキノコにも運が良ければ、出会えるかもしれません。

会 場 道の駅こすげ

時 間 10時～15時ごろ



小菅村の旬の農産物も並びます

○NPO 法人多摩源流こすげイベント情報

夏の源流体験やキャンプがひと段落して、スタッフも疲れをいやしたところ、秋のイベントを再スタートさせます。今年は昨年より実施しており、多くの方に大好評をいただいている渓流釣り教室や、森の中で五感を使った「いつもとはちょっと違う感覚を取り戻す」プログラムなども企画・検討しております。

プログラムの詳細については、NPOこすげのHPまたはFacebook、Twitterなどで募集いたしますので、ぜひご覧ください。

多摩川に学ぶ

防災の日と思う川のある街



NPO 法人砧・多摩川あそび村

理事長 上原 幸子

被災した経験から

私が住んでいるのは、多摩川をはじめ野川・仙川・丸子川など、水と緑に囲まれた自然豊かな住宅街です。平成 17 年 9 月 4 日の集中豪雨では野川・仙川が氾濫し、浸水被害を受けた地域でもあります。避難勧告が発令された際、豪雨の音にアナウンスはかき消され、窓を開けても内容は全く聞き取れない状況。早くに就寝し電話に出ない高齢者世帯には、町会役員自ら水に浸かりながら一軒一軒避難を呼びかけました。また、川が増水して避難所まで行き着けず、小さいながら 2 階建ての公共施設が吹き出しと一時避難所として機能しました。川のある地域で逃げ遅れを防ぐためには、まずは目の前にいる人たちが声を掛け助け合う町会・自治会の存在が大切であると実感する出来事でした。この時に避難所となった体育館が浸水被害を受けた小学校では、京浜河川事務所が行っている水防災教育のモデル校となり試行授業が行われました。理科の試行授業では、水の流れが勉強できる実験装置を京浜河川事務所から提供を受け、社会科の試行授業では、世田谷区から実際に起こった浸水被害状況の資料提供により、子どもたちに自分事と考えるための授業になりました。子どもから家庭へ、家庭から地域へと水防災に対する意識が広がるのが期待されます。



5 年生の理科と社会の試行授業

多摩川の土手を守る

異常気象が増え、3 年前の台風では多摩川河川敷も水がかぶりましたが、土手に守られ住宅街への影響はありませんでした。河川敷ならではの地形である大きな斜面は、土手滑りなど子どもたちに人気の遊びですが、草が劣化しないよう場所を変えて滑るように声かけしたりもします。私は下流域のリバーシビックマネージャーを務めていることから、京浜河川事務所による点検に同行したことがあります。土手の草刈りは年に 2 回ですが、法面は国、サイクリングロード協会は道路の管理者である自治体

が担当します。草刈りは土手の整備点検の機会でもあり、ダブルチェックとも言える仕組みです。

土手のスロープ整備を提案した時も、設置は国・管理は自治体ということで町会も交えて協議を重ね、安全で景観のいいスロープが平成 22 年に完成しました。土手が安全に保たれることで、流域の生活は守られています。



水の上がった多摩川河川敷グラウンド



緩やかな土手スロープが完成

9 月 1 日は多摩川にとってもうひとつの防災の日

関東大震災が起こった日であることは誰もが知るところですが、約 50 年の時を経た昭和 49 年の同日に起こった大災害が他ならぬ粕江水害でした。堤防が決壊し 19 戸の家が流されたことは、強く心に残っています。

訴訟による対立の歴史を対話の歴史に変えて行こうと始まった官民協働の取り組みや、多摩川の第 1 校目として粕江水辺の楽校が流域全体の牽引役となったことには感慨深いものがあり、25 年もの歳月を経て平成 11 年に建てられた「多摩川決壊の碑」を見に訪れたことがありました。そして今、多摩川流域懇談会の歴史の大切さに思いを馳せています。



水害の恐ろしさと治水の重要性を後世に伝える碑



多摩川改修 100 年

4. 橘樹縣道盛土案の攻防

国土交通省国土技術政策総合研究所
主任指導官、博士(工学) 和田 一範

アミガサ事件(大正3年(1914年)9月16日)から約4カ月、多摩川築堤期成同盟會のメンバーは関係機関を走り回って、御幸村の新堤建設の了解を得るべく奮闘しました。翌年1月8日には内務省の土木局長と面会し、「本件は重大な案件なので本省の技師を派遣して、上下流の被害を調査し裁断をする」との回答を引き出していますが、

「水に関する争いについては、旧慣を改めることはできない。よって無堤地区の築堤は認められない」との東京府側の頑なな主張に、問題解決のゴールは遠いと認識してしまいました。

そこで大正4年(1915年)に入って、御幸村の秋元喜四郎らは、郡道改修によって川側の盛土を行い水害防止を図る案を打ち出します。これは当時の多摩川の河川堤防が、郡道や県道といった道路と兼用のものがあったことと、東京側の築堤経緯を調べた結果、明治29年(1896年)の旧

河川法制定前に、いわば駆け込みで建設をしたもので、中には村道の名目で盛土工事をしたものもあったこと、などから、この際、河川法の手続きを飛ばして道路改良ということで工事ができないか、という企みです。

しかしこの案でも、橘樹郡道は御幸村の集落の、多摩川と反対側に走っているの、川側に盛土を新たに作る以上、河川法の手続きは必要ですし、そもそも郡道改良事業とは言えません。

これに対し、日吉村、町田村、住吉村は、どうしても内務省、東京府の理解が得られない川側の盛土案に見切りをつけ、陸側の盛土案である橘樹縣道(現在の府中県道)盛土案を打ち出します。

この案では御幸村は、多摩川の洪水の際は救われない上に、盛土によってせき止められた氾濫の水で、もっとひどい浸水被害を受けることになります。ただしこの案には、堤防の外側(川側)に

なる御幸村の大字には、西側関係村より見舞金を送る案が付いていて、これはこれで関係者の合意ができれば、十分に合理性はあると言えます。

しかしこの橘樹縣道盛土案によって、大正4年(1915年)2月、多摩川築堤期成同盟會は、橘樹縣道を東西に隔てて分裂してしまうのです。

さらにこの案には、3月17日付で、5名の御幸村の有力者(総代)が承認をしていました。5名の中には、期成同盟會委員の小島米三、幹事の矢島七蔵御幸村会議長などもいたからたまりません。御幸

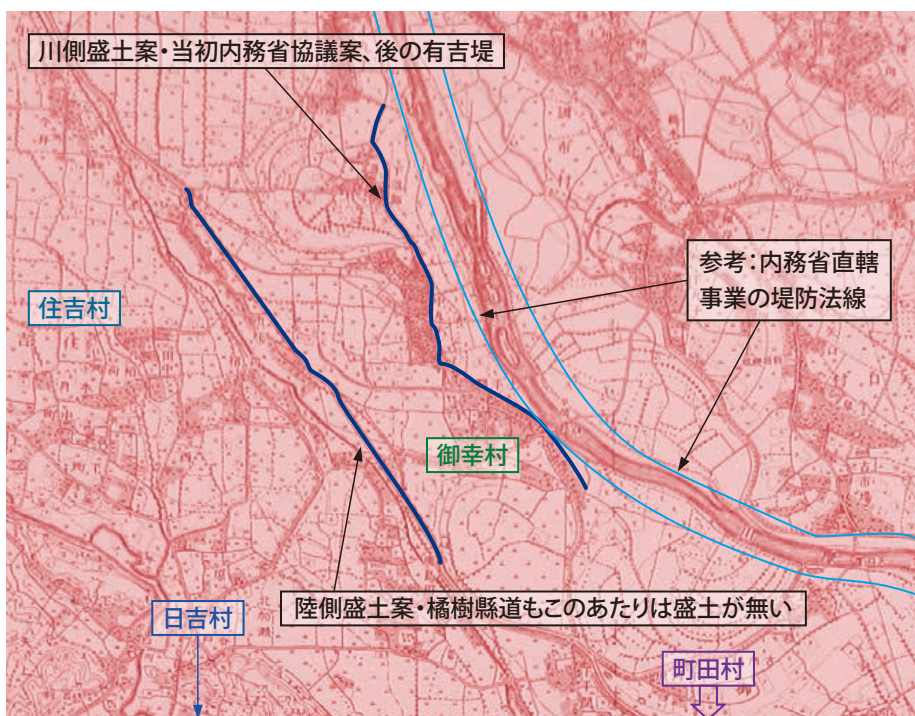
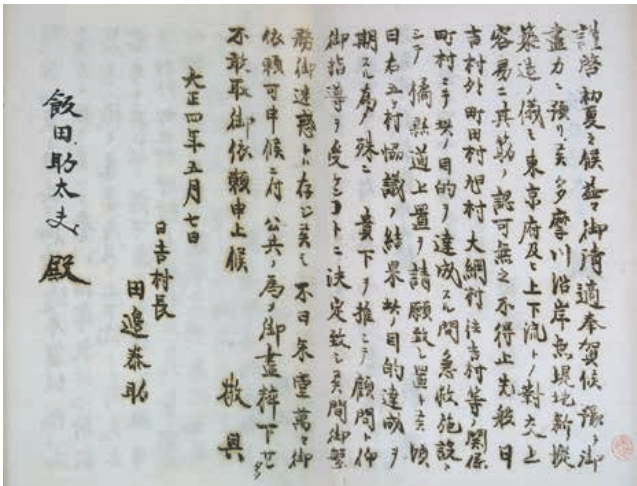


図 川側盛土案(後の有吉堤)と陸側盛土案(橘樹縣道盛土案)



田邊泰助日吉村村長より郡農会長飯田助太夫氏宛での、顧問就任依頼状村は村を割っての騒動に発展してしまいました。

秋元氏らは4月25日（横浜貿易新報記事）、28日（国民新聞記事）、御幸村村民百名余りでこの案に調印した5名の総代宅に押し寄せ、糾弾をします。これには川崎警察署長が仲裁に出てきますが、糾弾を受けた5名は調印の撤回を表明します。

ここに至って橘樹縣道盛土案は、橘樹郡を二分し、御幸村を炎上させる大騒動に発展してしまいました。

4月26日、秋元氏ら十数名は、県庁に橘樹縣道上置反対の陳情書を提出します。

一方で5月5日、日吉村長他は、日吉村小倉の無量院にて協議し、橘樹縣道上置の請願を決議しました。このとき決まった請願書が、「御幸村方面ニ於ケル橘縣道上置反対陳情ニ関スル請願書（日吉村方面提出）」です。

これには、御幸村がすでに県知事に対して提出した、「多摩川沿岸治水ニ関スル陳情書寫（御幸村方面提出）」が添付されていて、この内容を批判するとともに、知事に対してどちらの考えをとるか判断を迫っています。ほかにはまず見られない陳情で、水害に対するお互いの立場を尊重している点が、大変、興味深いものです。

これらの文書は、神奈川県立公文書館に飯田家文書として寄託されています。写真は、田邊泰助日吉村長より、郡農会長飯田助太夫氏にあてた、顧問就任の依頼文ですが、短文ながら明確に実情を表しています。

「無堤地への新堤築造の件は、東京府との関係で内務省の認可がおりないので、日吉村、町田村、旭村、大綱村、住吉村の関係町村は、目標達成までの間、救急施設として橘樹縣道の盛土を請願しています。五ヶ村協議の結果、貴殿に顧問としてご指導を受けたいと決し、御依頼申し上げます」

5月17日、御幸村秋元氏ら、中原村青木孫太郎、住吉村菊池東太郎の計6名は、県内務部長と会見し、県にて設計調査中の橘樹縣道地上げに反対、反省を求めます。

この反省を求めるといのは横浜貿易新報の記事ですが、これは県が、これまでの川側盛土案に沿って行動中であるにもかかわらず、関係者への調整をなんら行わないまま、日吉村請願の橘樹縣道盛土案について測量をはじめてしまったことへの抗議で、一時期、県にても橘樹縣道盛土案に同調していたことがうかがえます。

6月12日、秋元氏ほか数名は市村橘樹郡長と打合せを行い、6月14日をもって被害関係11ヶ町村総代12名が、小泉、戸井、杉山、佐藤の4代議士の応援を得て、内務省に御幸村新堤の再陳情を行う旨、決定します。

この時点でことは振出しに戻って、やはり11ヶ町村全体で、川側盛土である多摩川新堤築造の路線で、内務省へ再陳情を行う方針が定まりますが、この路線が、橘樹縣道盛土案を推すメンバーも了解したのかどうかは、定かではありません。

横浜貿易新報6月13日付のこの記事をもって、以降、しばらくこの問題は、記録がなくなります。おそらく川側盛土案と陸側盛土案の対立で、橘樹郡が真っ二つに割れてしまったことと、御幸村自体も橘樹縣道盛土案に承認をした5名に対するつるし上げの事件もあって、関係者はとことん疲弊し、膠着状態に陥ったものと考えられます。

幸い、この年は多摩川の洪水は大きなものではありませんでした。

次に新聞記事に登場するのは、石原健三知事が交代して、有吉忠一知事が赴任したのち現場を視察にやって来る10月11日です。

本稿に記載された橘樹縣道盛土案にかかる決議書、請願書ほかは、著者和田一範氏が神奈川県立公文書館の飯田家文書から見出して、はじめて一般に紹介したものです。興味のある方は、和田一範：多摩川近代改修の夜明け前—多摩川築堤期成同盟會の奮闘—、pp.1-52.2019年4月、水利科学 No.366（第63巻第1号）の詳細をご参照ください。

令和元年は、二ヶ領宿河原堰改築事業の完成から**20**年です！

二ヶ領宿河原堰(左岸：狛江市猪方、右岸：川崎市多摩区宿河原)は、平成6年から改築事業に着手し、平成11（1999）年3月に完成してから、令和元（2019）年で20年の節目を迎えます。

そこで、堰の果たしてきた役割等について、より知っていただくために、京浜河川事務所では下記のイベントを実施する予定です。

○行事予定

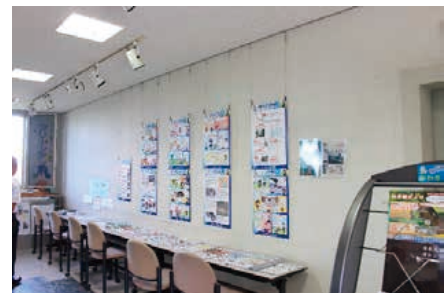
◆パネル展

【時期等】

令和元年10～12月頃に実施予定

【展示内容】

二ヶ領宿河原堰のこれまでの歴史や改築事業に関するパネルを展示



パネル展イメージ

◆施設見学会

【時期等】

令和元年10月～12月頃に実施予定
(複数回)

【実施内容】

管理橋・堰操作室・堰下監査廊等の見学会



二ヶ領宿河原堰 管理橋

◆講演会

【時期等】

令和元年12月上旬頃に開催予定

【講演内容】

二ヶ領宿河原堰改築事業や二ヶ領用水等をテーマとした講演会



二ヶ領用水

※日程等の詳細は、順次、京浜河川事務所のHPやFacebookなどでお知らせします。

二ヶ領せせらぎ館



二ヶ領せせらぎ館



二ヶ領宿河原堰

二ヶ領せせらぎ館は、宿河原堰管理所の一角にあり、平常時はその一部を防災、環境、歴史、文化に関する学習などの情報発信拠点として活用いただいております。

この二ヶ領せせらぎ館は京浜河川事務所が進めている「多摩川流域リバーミュージアム（TRM）」や川崎市が進めている「多摩川エコミュージアムプラン」と連携を図っており、その管理・運営は京浜河川事務所や川崎市がサポートを行いながら市民が主体となって多数のイベントを開催しています。



【アクセス】

JR南武線・小田急線 登戸駅下車徒歩10分、またはJR南武線 宿河原駅下車徒歩15分
※駐車場はございませんのでお車でのご来場はご遠慮下さい。

【開館時間】

午前10:00～午後4:00
(5月～8月の土・日・祝日は、午前9:00～午後4:00)

【休館日】

毎週月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日)、第1・3水曜日

【お問合せ先】

二ヶ領せせらぎ館(NPO法人多摩川エコミュージアム事務局)
〒214-0021 川崎市多摩区宿河原1-5-1
TEL.FAX. 044-900-8386

京浜河川事務所ではFacebookを公開しています！

京浜河川事務所の取り組みや 所管する多摩川、鶴見川、
相模川、西湘海岸、沖ノ鳥島に関する情報を、みなさんに
分かりやすく情報発信していきます



<https://www.facebook.com/keihin.river.mlit/>

2019年度研究助成金贈呈式を開催いたしました



理事長・選考委員との記念写真

7月18日（木）渋谷エクセルホテル東急に於いて「2019年度研究助成金贈呈式」を開催しました。

今年度の助成につきましては、去る3月7日の「第61回定時選考委員会」におきまして、田畑貞壽委員長をはじめとする選考委員により、長時間に及ぶ厳正な審議の結果、総件数60件の中から、学術研究20件、一般研究8件、計28件の研究が助成対象として採択されました。当財団の研究助成制度は今回で45回を数え、累計助成件数は、1,280件、累計金額は14億9900万円となっております。

懇親会では、助成金受領者同士の意見交換や選考委員との交流も多くみられ有意義な「場」となったようです。また会場ロビー前では、昨年同様、国土交通省 京浜河川事務所のご協力を得て「流域住民と行政のパートナーシップで川づくり」「川のにぎわい創出」等のパネル展を開催いたしました。

「東急財団」として初めて開催した「研究助成金贈呈式」は、おかげさまで90名様近い方のご参加をいただき盛会裏に終えることが出来ました。



多摩川をイメージしたブルーのスパークリングで乾杯！



2020年度 助成研究ご応募お待ちしております

2019年度 研究助成金受領者

1 新規 学術研究

No.	研究課題	代表研究者	所属	研究期間	2019年度助成金額
1	多摩川流域における水中微細マイクロプラスチック存在調査とシミュレーションモデルを用いた流域内挙動解析	亀田 豊	千葉工業大学 創造工学部 准教授	2年	1,000,000
2	巨大都市を流れる多摩川流域で薬剤耐性遺伝子を伝播しうるプラスミドの同定とその伝播経路の解明	新谷 政己	静岡大学 工学部 准教授	2年	1,000,000
3	多摩川の流域周辺に生息するワカケホンセイインコ (<i>Psittacula krameri manillensis</i>) など、野生化した飼鳥から人に感染する病原体の調査	佐々悠木子	東京農工大学農学研究院動物生命科学部門 講師	2年	1,000,000
4	多摩川における薬剤耐性遺伝子の動態に及ぼす下水処理水の影響評価	春日 郁朗	東京大学 大学院工学系研究科都市工学専攻 准教授	1年	1,000,000
5	多摩川流域のドジョウ類の分布と生息環境、及びヒガシシマドジョウの河川内での季節移動と環境利用	吉川 朋子	玉川大学 農学部 生産農学科 教授	2年	998,736
6	多摩川中流域の湧水水路網における景観構造の解明と保全・活用方策の提案	矢澤優理子	千葉大学大学院園芸学研究科環境園芸学専攻 緑地環境学コース風景計画学研究室・博士後期課程1年	1年	455,000
7	多摩川上流域に侵住した大型珪藻外来種の生息状況とその対策に関する研究	田中 正明	四日市大学生物学研究所 所長	2年	836,520
8	多摩川水系におけるセミの抜け殻を利用した土壌中元素分布の広域調査	大貫 敏彦	東京工業大学 科学技術創成研究院 教授	2年	1,000,000
9	多摩川底質の亜酸化窒素消費ポテンシャルの体系的評価：排水処理施設からの放流水の影響	寺田 昭彦	東京農工大学 大学院工学研究院 教授	2年	1,000,000
10	水の循環と子どもの遊びからみる自然と社会とのつながりとその価値について—多摩川流域の自然環境保全に向けた流域連携の可能性に向けて	土肥 真人	一般財団法人エコロジカル・デモクラシー財団 代表理事	2年	872,000
11	多摩川におけるマイクロプラスチック汚染状況と魚類への影響	二瓶 泰雄	東京理科大学 理工学部土木工学科 教授	2年	1,000,000
12	多摩川の遺伝資源：固有の魚類個体群とその生態	吉永 龍起	北里大学 海洋生命科学部 准教授	2年	1,000,000
合 計 (12件)					11,162,256

2 新規 一般研究

No.	研究課題	代表研究者	所属	研究期間	2019年度助成金額
1	多摩川中流域における魚類（オイカワ）をマーカーとしたマイクロプラスチック汚染調査	伊藤 教行	特定非営利活動法人 R.I.La 主任研究員 理事	1年	497,000
2	玉川上水・本水路護岸に作られる「分水口空間」の環境調査—江戸時代に作られた「分水口空間」の知恵をさぐる—	渡部 一二	水縁空間デザイン研究所 所長	1年	493,380
3	多摩川鳥類カウント再現	蓮尾 純子	多摩川鳥類カウントグループ 会長	2年	674,000
4	プラスチック製産卵誘致容器の活用によるトンボ類の保護・増殖	久保田繁男	特定非営利活動法人横沢入里山管理市民協議会 理事長	2年	364,842
5	玉川上水・分水網関連遺構 100 選の評価と冊子・展示資料等の作成	辻野五郎丸	中央大学理工学部都市環境学科谷下研究室 共同研究員 玉川上水域研究会代表	1年	500,000
6	多摩川流域におけるフクロウの生息状況確認調査	板谷 浩男	多摩川流域のフクロウ調査研究グループ	1年	500,000
合 計 (6件)					3,029,222

3 継続 学術研究

No.	研究課題	代表研究者	所属	研究期間	2019年度 助成金額
1	多摩川における感染力を有した腸管系ウイルスの動態解明	端 昭彦	富山県立大学工学部環境・社会基盤工学科 講師	2年	790,000
2	多摩川河口域における水生菌類の多様性と有機物分解機能の評価	鏡味麻衣子	横浜国立大学大学院環境情報研究院 教授	2年	1,700,000
3	多摩川水系におけるニホンウナギの保全のための資源生態調査	黒木 真理	東京大学大学院農学生命科学研究科 助教	2年	1,700,000
4	多摩川水系における天然及び人工放射性物質の環境総合評価	岡田 往子	東京都市大学 工学部原子力研究所 准教授	2年	1,700,000
5	多摩川の微生物生態系モデル構築による下水処理水の影響や季節変動の解析	山村 雅幸	東京工業大学 情報理工学院 教授	2年	1,324,800
6	多摩川源流域における「耕作跡地の二次草原」の生物多様性とその時空間動態	今井 伸夫	東京農業大学 地域環境科学部 森林総合科学科 森林生態学研究室 准教授	2年	1,661,900
7	多摩川流域のアブラナ科アブラナ属の地域在来野菜における遺伝的由来と品種および栽培特性に関わる研究	元木 悟	明治大学農学部 農学科・野菜園芸学研究室 准教授	2年	1,224,000
8	多摩川流域の観光発展と環境教育の役割について —一人々の観光に関わる行動分析と観光政策—	高尾 美鈴	中央大学大学院 経済学研究科	2年	913,000
合 計 (8件)					11,013,700

4 継続 一般研究

No.	研究課題	代表研究者	所属	研究期間	2019年度 助成金額
1	多摩川における日本在来河原植物の分布調査	柴田 隆行	多摩川の自然を守る会 (代表)	2年	163,000
2	御岳山山域 蘚苔類フロラ調査 —御岳山の苔の魅力を発掘し、大切な資源として後世に遺すために—	井口 三月	御岳山苔の会 (代表)	2年	82,680
合 計 (2件)					245,680
総 合 計 (28件)					25,450,858

環境学習副読本を全面改訂します

東急財団では今年、小学生向けの環境学習副読本を全面改訂します。

今回、改訂発行する副読本『ようこそ多摩川へ』は、多摩川の水中や流域に生息する生き物から、水資源や産業、交通や治水などの多摩川と人とのかかわり、川をめぐる最近の課題に至るまで、多摩川に関するあらゆるテーマを広く取り上げています。また、掲載情報も20年ぶりに更新し、多摩川の今の姿が手に取るように分かる内容になっています。

東急財団の前身である、とうきゅう環境浄化財団では、1994年に財団発足20周年を記念して、主に多摩川流域の小学校で授業や課外活動に役立てていただくために、副読本『多摩川へ いこう』を制作しました。以後、流域の小学校を中心に毎年無償配布しており、現在までの累計発行部数は30万部に達しています。

この間、多摩川をめぐる環境は大きく変化しました。家庭排水等で汚染されていた水質は大幅に改善し、今ではアユの遡上がみられるまでになりました。一方、度重なる水害や外来生物の増殖など、河川をめぐる新たな課題も生じてきています。

新しい副読本では、このような最新のテーマも取り上げつつ、写真やイラストを多用した図鑑スタイルとするとともに、小学生にも読みやすいよう漢字には全てふりがなを振りました。また、新たな試みとして、指導者用の教本(別冊)もご用意しました。

『ようこそ多摩川へ』は、2019年末頃に発行の予定です。発行しましたら財団公式ウェブサイトでお知らせいたします。



〈イメージ〉

○新版副読本の概要

- 書名：『ようこそ多摩川へ』
- 企画：公益財団法人 東急財団
- 編集制作：株式会社学研プラス
- 判型：B5
- 仕様(予定)：本編 42 ページ (オールカラー)
指導者用 20 ページ (2色刷り)
- 配布形態：財団事務局から送付
- 価格：無料

(ただし、送付の際、実費のご負担をお願いいたします。
詳しくは、申込受領後に、折り返しご案内いたします。)



インフォメ／多摩川

多摩川流域他の各種団体等の9月から12月に開催される環境活動に関する主な行事・イベント情報を紹介いたします。

美しい多摩川フォーラム

- 1. 「多摩の物語」の語り会 (9月6日(金):府中市市民活動センタープラッツ「バルトホール」)
- 2. 多摩川“水”大学講座 (9月20日(金):府中市男女共同参画センター)
- 3. 多摩川“水”大学講座 (10月18日(金):府中市男女共同参画センター)
- 4. 美しい多摩川クリーンキャンペーン
(11月2日(土):多摩市〈一ノ宮公園〉、11月9日(土):川崎市〈殿町第2公園〉)
- 5. 多摩川カヌー駅伝大会 2019&多摩川ウォークラリー (11月23日(土):青梅市~昭島市)
- 6. 第12回多摩川子ども環境シンポジウムを開催 (12月7日(土):昭島市フォレスト・イン昭和館)

■お問い合わせ先

美しい多摩川フォーラム事務局 (青梅信用金庫 地域貢献部内)

担当: 及川 / 鈴木 / 木村

TEL 0428-24-5632 FAX 0428-24-4650

E-mail forum@tama-river.jp URL <http://tama-river.jp>

一般財団法人 世田谷トラストまちづくり

■野川せせらぎ教室 <虫をさがそう!> ~野川

○ 9月8日(日) 午前9時30分~午前11時30分 ※要申込

■秋のバードウォッチング <親子観察会> ~野川周辺

○ 10月26日(土) 午前9時30分~11時30分 ※要申込

■晩秋のみつ池体験教室~成城みつ池緑地

○ 12月15日(日) 午前10時~午後2時 ※要申込

■世田谷トラストまちづくりビジターセンター ~世田谷区成城 4-29-1 (野川沿い)

* 「身近な自然と触れ合うミニイベント」

○ 9月1日(日)、10月6日(日)、11月3日(日)、12月8日(日)

※要申込 /tel.03-3789-6111

* 「みどりの上映会」

毎週土曜日の午前10時~正午、午後1時30分~3時30分 随時・申込不要

■申込・お問い合わせ先

(一財) 世田谷トラストまちづくり トラストみどり課

TEL 03-6379-1624 FAX 03-6379-4233

〒156-0043 世田谷区松原 6-3-5

財団 HP <http://www.setagayatm.or.jp/>

むさしの化石塾 多摩川で化石から学ぶ環境学習です。

「むさしの化石塾」ではどんなことをするのか？

地域市民を対象に、多摩川で豊富に産出する化石から学ぶ環境学習を行っています。
 むさしの化石塾は、化石を教材にした調べ学習を行う生涯学習教室です。
 発見した化石の調べ学習を通して、学術研究を行う場合があります。
 学会発表や論文記載、発見化石の博物館への貸与や寄贈も行っています。
 是非お気軽にお問い合わせください。

多摩川の化石について

多摩川は第四紀学の材料の宝庫です。
 その理由は多摩川の川底では、削られるたびに第四紀層の地層の中から次々と化石が出現するからです。
 陸に住む化石では、アケボノゾウ（動物化石）やメタセコイア（植物化石）などが見つかります。
 海のご生物では海生哺乳類や貝化石が見つかります。
 過去に生きていた古生物の証が流失する前に、未然に採取して教材として生かすことを目的としています。

9月～12月 室内作業・定例ワークショップのお知らせ

■室内教室（主に多摩川産の第四紀層の化石標本群の調べ学習会）

- 9月開催日時：9/14（土）14-16時【2時間】
- 10月開催日時：10/19（土）14-16時【2時間】
- 11月開催日時：11/16（土）14-16時【2時間】
- 12月開催日時：12/14（土）14-16時【2時間】

- ・開催場所・連絡先：〒208-0003 東京都武蔵村山市中央3-20-7 むさしの化石塾にて
- ・参加人数：1回10名まで（3回とも少人数限定実施）。
- ※要事前予約：（1週間前までに事前参加申込み願います）
- ※参加者の連絡先、氏名、年齢、性別、希望などをご記入の上、開催日1週間前までメール（Email: geo@extra.ocn.ne.jp）にて、申し込み願います。
- ※日程は変わることがあります。
- ※参加費：2,000円（発掘母岩・教材込み）

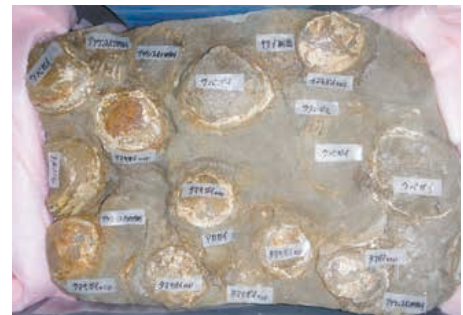
■化石採集会（オプション）不定期開催（お楽しみに）

- 台風通過後や天候の状況を考慮し、開催前に参加希望者にご案内します。
- ※参加費：3,000円（資料代・レク保険加入込み）
- 事前情報はむさしの化石塾 twitter にアップします。
- https://twitter.com/musasino_fossil をご覧ください。

- ★むさしの化石塾にご興味のある方は、氏名・住所・年齢・連絡先・質問事項など参加希望等の理由を明記の上、郵送にて願います。

■お問い合わせ先

GeoWonder 企画 むさしの化石塾
 〒208-0003 東京都武蔵村山市中央3-20-7 MKJ 事務所
 むさしの化石館 042-567-1095 (FAX)
 むさしの化石塾 代表 福嶋 徹 090-1769-8020



小宮層貝化石



川崎市域水辺の楽校

川崎市域水辺の楽校開催予定

かわさき水辺の楽校	だいし水辺の楽校	とどろき水辺の楽校
9月8日(日) ニヶ領用水で魚つかみ (多摩区と合同) 10:00～14:00 ニヶ領せせらぎ館周辺	9月14日(土) ハゼ釣り教室 13:00～15:00 周辺の多摩川	9月8日(日) 水の安全教室 カッパの川流れ いざという時のためのロープワーク ジュニアニッパーボード試乗体験 10:00～12:00 多摩川丸子橋付近河川敷
9月23日(月・祝) 3校合同ハゼ釣り教室 (事前申込制) 10:00～12:00 集合: JR川崎駅改札前 場所: 川崎市殿町第二公園前堤防	9月23日(月・祝) 3校合同ハゼ釣り教室 (事前申込制) 10:00～12:00 集合: JR川崎駅改札前 場所: 川崎市殿町第二公園前堤防	9月23日(月・祝) 3校合同ハゼ釣り教室 (事前申込制) 10:00～12:00 集合: JR川崎駅改札前 場所: 川崎市殿町第二公園前堤防
10月6日(日) ニヶ領用水取水口で魚釣り 10:00～14:00 ニヶ領せせらぎ館周辺	9月28日(土) ハゼ釣り教室 13:00～15:00 周辺の多摩川	9月29日(日) 多摩川エコラシコ 川崎フロンターレ選手会協力事業 13:00～15:30 丸子橋下で清掃活動・ 啓発イベント開催
	10月12日(土) ハゼ釣り教室 13:00～15:00 周辺の多摩川	昆虫観察 10:00～12:00 多摩川とどろき河川敷
11月9日(土) 秋の緑化フェア (川崎市緑化センター祭り)に参加 10:00～15:00	10月27日(日) だいし水辺の防災フェスタ 10:00～15:00 水防センター	11月3日(日・祝) 二子の渡し体験 12:00～15:30 二子神社境内他
12月7日(土) 多摩区の外遊びに参加 10:00～14:00 生田小下校庭	11月9日(土) 自然観察会 13:00～15:00 干潟館と周辺	11月10日(日) 丸子の渡し祭り &多摩川で和むe体験 10:00～15:30 多摩川丸子橋河川敷

お問い合わせ先

NPO 法人 とどろき水辺の楽校

理事・事務局 鈴木 眞智子

〒212-0004 川崎市幸区小向西町三丁目64

電話 044-201-1493 携帯 090-5814-9604

E-MAIL info@todoroki.org <http://www.todoroki.org>

みずとみどり研究会

みずとみどり研究会 「勉強会合宿」 拡大定例会企画

目的と趣旨 地球の私達の「暮らし」には、身近に水と緑があります。
そして今、「暮らし」には、プラスチックゴミ問題、人の移住の制限等が発生しています。
皆さまと「暮らしを学ぶ」場を設定しました。是非ご参加下さい。

日時 9月13日(金)午後～9月14日(土)お昼ごろまで

場所 武蔵五日市近隣 **主催** みずとみどり研究会

参加費

- ・全行程参加 (宿泊費、資料代等含む) 17,000円
- ・13日のみ参加 (資料代等含む) 2,000円
- ・14日のみ参加 (資料代、車移動等含む) 3,500円

参加費に下記は含まれません。

- ・自宅から会場までの交通費
- ・14日の昼食代

申込み締切 9月6日(金) **定員** 15名

1日目 「まちから川、海に流出するごみの問題を考える」

日にち 9月13日(金)

受付 14時30分～

会場 自然休養村 山溪(さんけい)
2階 大広間「城山」

テーマ 「海洋プラスチックごみ問題への対応～
山形の現場から考える」

講師 金子 博氏
(みずとみどり研究会会員・NPO法人
パートナーシップオフィス理事)

プログラム

- 15時～ 講義
- 16時～ 質疑応答・意見交換
- 17時～ 明日の予告DVD上映

2日目 「五日市憲法から学ぶ」

日にち 9月14日(土)

受付 8時45分～

会場 五日市郷土館、市内関連
テーマ 「五日市憲法について学ぶ」

講師 鈴木 富雄氏
(五日市憲法草案の会 事務局長)

プログラム

- 9時～ 鈴木さんより一言
- 9時15分～ 市内関連個所見学 (6か所)
※車に分乗し移動
郷土館に戻り座学
- 12時30分～ 昼食と意見交換、交流会
- 14時ごろ 解散

宿泊者 13日(金) 14日(土)
行程 18時～ 夕食と懇親会 7時30分 朝食 8時20分 出発(会場入り、受付)
※全行程の参加者の方は、夕食、朝食、懇親会費込の金額が宿泊費に含まれます。

氏名			
お住まい			
電話			
メール			
参加のコース	全行程参加	13日のみ参加	14日のみ参加

■お申込み・お問い合わせ先

みずとみどり研究会 事務局(佐山)

連絡先 TEL/FAX 042-327-3169 E-mail mizutomidoriken@ybb.ne.jp

森林総合研究所 多摩森林科学園

■森林講座

講座開催日	講座タイトル
9月13日(金曜日)	火に負けない木づかい
10月11日(金曜日)	放射能に汚染されたシイタケ原木林の利用再開に向けて
11月15日(金曜日)	樹木のタネの成り年の不思議
12月6日(金曜日)	森林スポーツの現状と課題

会 場 多摩森林科学園 森の科学館

時 間 各講座とも13時15分～15時

受 講 料 無料(ただし、入園料として大人300円、子供50円必要となります。)

お申込方法 お申込の受付は各講座開催日の前月の1日からいたします。

(例) 9月13日の森林講座の受付は、8月1日到着分から

受付は先着順で定員に達したら締切となります。定員に達しない時でも講座開催日の1週間前が締切となります。応募受付の回答は、先着順で順次お知らせします。

往復はがき、または電子メール shinrinkouza@fpri.affrc.go.jp で承ります。

ご希望の講座名・郵便番号・住所・氏名・電話番号・参加希望者数をご記入の上、お申込ください。なお、それぞれのお申込1通に対し、1講座3名までの受付とさせていただきます。

※お電話でのお申込は受け付けておりません。

※ご提供いただいた個人情報は、森林講座の連絡にのみ使用させていただきます。

■お問い合わせ先

国立研究開発法人 森林研究・整備機構

森林総合研究所 多摩森林科学園

〒193-0843 東京都八王子市廿里町1833-81

TEL 042-661-1121 Email shinrinkouza@fpri.affrc.go.jp

アミガサ事件100年の会

■日吉郷土史会に出張講演 テーマ：「多摩川の水害と築堤運動」

日 時：9月21日(土) 午後2時～午後4時

会 場：幸区役所日吉分館 第3、4学習室(幸区南加瀬1-7-17)

■毎年祭(セミナー&懇親会) テーマ：「多摩川の水害と築堤運動」と懇親会

日 時：9月28日(土) 午後2時～午後4時

会 場：上平間第3町会会館(中原区上平間1700-21)

◎「財団だより多摩川」158号掲載時より日程が変更になりました。

■中原市民館で行われるアートフェス「コスギアート・ラ・ファブリカ」に参加します！

なかはらミュージカルと協力してワークショップを出店します。

日 時：9月16日(月)(祝) 午前10時～

会 場：中原市民館 第1会議室

詳細は➡ <https://kosugiart.wordpress.com/>

■お問い合わせ先

アミガサ事件100年の会 織戸美紀世

TEL 080-9572-7479 FAX 044-511-1812



アミガサ事件100年の会



NPO 法人 砧・多摩川あそび村

■ 「きぬたまあそび村」

「自分の責任で自由に遊ぶ」多摩川の自然体験遊び場です。

世田谷区の委託を受けて運営し、プレーワーカーと呼ばれるスタッフが常駐しています。

日 時：毎週4日 月・水・金・土 10時30分～17時

場 所：多摩川河川敷二子緑地せたがや水辺の楽校はらっぱ

アクセス：東急田園都市線・大井町線「二子玉川駅」徒歩20分

東急バス 砧本村行き バス停：都市大グラウンド前下車1分

成城学園前駅行き バス停：砧南中学校前下車4分

★イベント案内

時間と場所：イベントは「きぬたまあそび村」の活動内に、時間を区切って行います。

・生きものたくさん

9/14 (土) 11:00～／13:00～

たくさんの生きものと出会う原っぱあそびが、何倍も楽しくなる生きものツアーです！

講師：生きもの博士・伊藤晴康さん

・竹工作の日

9/16 (月) 10/14 (月) 11/4 (月) 13:00～15:00

竹おじさんが地元の竹材を生かした工作を教えてください！

協力：世田谷トラストまちづくり喜多見竹山市民緑地ボランティア



・草木染め

10/19 (土) 11:00～15:00

コセンダングサやセイタカアワダチソウなど、多摩川の外来植物を使って染めます。

講師：多摩川博士・えのきん

材料費：200円

・クリスマスリースづくり

11/30 (土)～ 11:00～15:00

多摩川の原っぱに繁茂しているクズのツルでリースを作ります。

材料費：300円



・アートの日 毎月1回月曜日 13:00～

・体あそびの日 毎月2回金曜日 11:00～12:00

詳細はブログなどにUPします。下記にてご確認ください。

■お問い合わせ先

NPO 法人 砧・多摩川あそび村

〒157-0077 世田谷区鎌田1-19-1-101 きぬたまの家

TEL 03-6447-9931

MAIL info@kinutama.com HP <https://kinutama.com/>

ブログ <http://asobimura.exblog.jp/>



きぬたまあそび村

NPO 法人多摩川エコミュージアム

■第17回 多摩川夕涼みコンサート

日 時：9月1日(日) 開場 17:30 開演 18:00
(雨天時はせせらぎ館内)

場 所：ニヶ領せせらぎ館下多摩川河川敷広場

出演者：アコースティック POP インストユニット *style-3!*

料 金：前売券 1,000 円 / 当日券 1,300 円
(中学生以下 無料)

夏の終わりのコンサート!

style-3! と一緒に楽しみましょう♪♪♪



■ラフティングボート乗船体験会 (平成 31 年度川崎市都市ブランド推進事業)

日 時：9月7日(土) スタート 10:00 ~ (20 分間隔で順次スタートします)

場 所：ニヶ領せせらぎ館宿河原堰下

内 容：ライフジャケットを着用し、安全を確認して、6 人乗りラフティングボートに乗り
約 1km 多摩川を下ります。

参加費：500 円 / 1 人 **【事前申込制です。集合時間は参加者と調整の上でご連絡します。】**



■秋の多摩川まつり

日 時：11月17日(日) 11:00 ~ 14:00

場 所：ニヶ領せせらぎ館広場と館内

内 容：演奏会・早朝の穫れたて野菜の販売・ゲーム・飲食コーナー
専修大学課題解決型インターンシップの学生が企画運営します



■お問い合わせ先

ニヶ領せせらぎ館 (にかりょうせせらぎかん) 【JR 南武線 / 小田急線登戸駅下車徒歩 8 分】

TEL/FAX : 044-900-8386 URL : <http://www.seseragikan.com/>

住 所：神奈川県川崎市多摩区宿河原 1-5-1

開館時間：10:00 ~ 16:00 5 月 ~ 8 月 土日祝は 9:00 ~ 16:00

休 館 日：毎週月曜日 (祝日の場合はその翌日) 及び第一・第三水曜日

せたがや水辺の楽校

■あそびの日（第1日曜日 10時～12時）

- ・開催日 9月1日・10月6日・11月3日・12月1日：10時集合
- ・集合受付場所：せたがや水辺の楽校原っぱ
- ・インタープリター、専門家と生き物を捕まえて観察します！10月までは川にはいります。11月からは草地での活動になります。



木の枝で作られた
虫のすみか



■原っぱアトリエ（第3日曜日 10時～15時）

- ・開催日 10月20日・11月17日・12月15日：10時～15時
- ・場所：せたがや水辺の楽校原っぱ
- ・原っぱの大きなキャンパスで思いっきり絵を描いたり、自然素材でアートします。みんなで火を囲んで、お料理したり、ごはんを食べたりもするよ。



みんなの畑にアースオーブンができました

■あそぶ・つくる・たべる・つながる まち家族化計画展開中！

「みんなの畑」や、「大きな家族の里帰りツアー」なども随時開催中。
ホームページなどをチェックしてね。
夏休み明けには「せたがや水辺の楽校だより No.43」が発行されます。

■お問い合わせ先

NPO 法人せたがや水辺デザインネットワーク

Mail info@mizubedesign.org TEL 080-3007-5413 (村上)

HP <https://mizubedesign.org>

ブログ <https://semizube.exblog.jp/> FB <https://www.facebook.com/mizubedesign/>



～～多摩川と崖線の森の街で 一人ひとりが大切にされる毎日を～～

多摩川を下る!

ヘタレサイクリスト

その 7



さて、冒頭から、いきなり「馬」であります。と言っても、ここは北海道の牧場などではありません。多摩川の河川敷には川崎競馬のトレーニングコースがあり、厩舎とコースの間を道路が横切っているため、日々、早朝にはこんな風景が見られるのであります。ちなみにここでは馬券は買えませんので、レースに投票したい方は競馬場へどうぞ。



疾走する馬を横目に、ワタクシも愛車「銀星号」を疾走させます。しばらく進んでいきますと、いつしか、川沿いに城壁のようにマンションが立ち並び風景が。とはいえ、各マンションの「おもて」はバス通りのほうを向いており、コチラ側はあくまで「うら側」なのでありまして、さしずめ多摩川は壮大な「裏庭」といったところでしょうか。こんな景色を毎日ペラングダから眺めるのは、どんな気分なのでございましょうね? 何千人の人が同じ景色を日々眺めていると思うと、なんだか不思議な気がいたします。



ふと耳を澄ますと、川下のほうから南風に乗って、電車が鉄橋を渡る音。目を閉じれば、重厚な音が軽やかに、右耳から左耳へ通り抜けます。鳩たちが一列になって翼を休めていました。邪魔をしてはいけません。ここは足早に通り過ぎます。



鉄橋のすぐ近くまで来ました。ここは、6本の線路が一斉に多摩川を渡る、交通の要衝。どの鉄橋も手が届きそうな高さにあります。電車が3分と間を空けずに次々と走り抜けます。振り返れば、通り過ぎてきたマンション群が、静かな川面の水鏡にその姿を映しております。・・・



・・・何度目かの居眠りを何度目かの電車の通過で起こされ、再び下流に向かってペダルを漕ぎだします。鉄橋の真下を、思わず頭をすくめながら勢いよく通り過ぎますと、行く手に立ちふさがるは大踏切。先ほどの鉄橋とは対照的に、悠々と通り過ぎる真っ赤な電車は京急大師線。しばらくは、この線路にゆるやかに沿いつつ、ペダルを進めることにいたします。



川っぶりギリギリを走る電車。この高低差、なんとも不思議な風景です。



やや広い、しかし車は入れない道を川沿いにクネクネ進んでおりますと、突如眼前に立ち現れたのが、川崎河港水門。見てくださいこの威容。



さすが有形文化財・産業遺産であります。この姿でこの地に90年間、じっと立っているのです。敬礼しつつ、草むした小道をさらに下流へ進みます。気づけばまわりは、すっかり工場一色になっております。



小さな舟が川を上ってきました。二艘一組で、何やら作業中のように、コチラから手を振ってもまったく気づかない様子であります。おつかれさまです。川幅いっぱい三角の波を広げながら、舟はゆっくりと視界の外へ。それを待ちかねたように、カワウが魚を求めて勢いよく水に潜るのが小さく見えます。



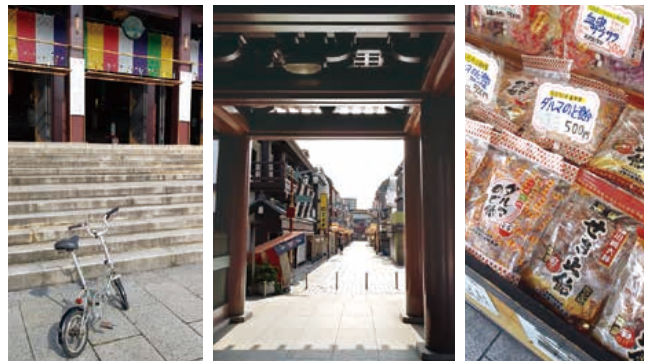
ついに、河口から4キロちょっとまで来ました。こらでちょっとコースを外れ、街中に出てみましょうか。ほら、こんな看板も建っていることすし。



このあたりの商店街、なかなかヨイ雰囲気です。



「銀星号」を止めて、川崎大師の大本堂にお参りです。



なにぶん朝も早いので、名物・久寿餅(くずもち)屋はまだ開いていません。と、何やら御利益のありそうな飴屋が開いているのを発見。お店の人に勧められた試食品で、エネルギーチャージ。いくらなんでもこれだけで立ち去っては・・・、と、名物「せき止飴」を一袋買い求め、先へ進みます。

再び河原に戻ると、一面に葦原と干潟が広がっております。



泥の中をついばんでいるサギの姿もちらほら。ここには「大師河原干潟館」があり、多摩川の魚の展示などもしているのですが、残念ながら今日は休館日。これはまた、次回来なければなりません。このあたりから河口までは、ちょうど3キロです。

はい、ついに来ました大師橋！これは多摩川に架かるあまたの橋の中で、最も下流に位置し、見事に羽を広げている斜張橋であります。さあ、ここまで来ればもうまったく先を急ぐ必要はありません。ここから河口までのラストスパートは次回の楽しみにとっておいて、今回はこらで「銀星号」を畳み、帰路につくことにしましょうか。



えー、今回は、成り行き上、川崎市側のスポットのみのご紹介となりました。都民の皆様ごめんなさい。埋め合わせに、大師橋を渡った東京都大田区側で名物の佃煮を買って帰りますんで、これでなんとか・・・。



さあ、次回はいよいよ最終回。一気に河口を目指します！

(取材 2019年7月)

2020年度 助成研究募集のご案内

多摩川およびその流域の環境浄化に関する 基礎研究、応用研究、環境改善計画のための研究・活動の募集

公益財団法人 東急財団（理事長 越村 敏昭）は、1975年より、多摩川およびその流域の環境浄化の促進や自然環境の保全などに必要な調査や試験研究を毎年公募してきています。その結果、これ迄に1,280件（学術研究801件、一般研究479件、約15億円）の調査・試験研究費用の助成をさせて頂きました。

2020年4月からの助成についても下記の通り、従来と同様、意欲的な調査や試験研究を募集致します。

応募資格

学識経験者の方はもちろん、一般の方でも下記テーマにあった研究で、意欲のある方であれば、どなたでもご応募いただけます。

助成研究対象テーマ

多摩川およびその流域の環境保全・改善に関する調査、試験研究

- ①産業活動または住生活と多摩川およびその流域との関係に関する調査および試験研究
- ②排水・廃棄物等による多摩川の汚染の防除に関する調査および試験研究
- ③多摩川およびその流域における水の利用に関する調査および試験研究
- ④多摩川を取り巻く自然環境の保全、回復に関する調査および試験研究
- ⑤シンポジウム、音楽会あるいは出版等による環境啓発活動や、歴史的な遺産あるいは社会システムの維持保全・回復運動等、多摩川およびその流域における環境保全や文化の創造に広く寄与する調査および試験研究

応募方法

当財団所定の申請書に必要事項を記入、捺印の上、財団宛ご提出ください。

（申請書用紙は、公式ウェブサイトからダウンロードできます。）手書きでの申請書はご遠慮ください。

助成の決定

2020年3月に開催予定の当財団選考委員会にて選考のうえ決定します。

応募期間 2019年9月1日（日）～2020年1月20日（月）

応募締切日 2020年1月20日（月）消印有効

応募にあたっての注意事項

- ①ご応募にあたっては、当財団の定める「調査・試験研究助成および個人情報の保護に関する規程」を必ずお読み下さい。（同規程は、公式ウェブサイトに掲載しています。）
- ②過年度に不採用となった調査や研究の再応募は受付けておりませんので、同一の調査・試験研究課題で再応募される場合は、前回のものと調査や試験研究の内容の違いがよく判るよう工夫して、申請書をご作成下さい。

助成研究の種別と条件

研究の種別	学術研究	一般研究
研究の区別	環境問題改善のための調査や試験研究で、専門性が高く、その分野の学識経験を必要とするもの。	環境問題改善のための調査や試験研究で、一般の市民が、特別な学識経験を必要とせず取り組めるもの。
	(財団の公式ウェブサイトで過去の研究事例をご参照ください。)	
1件当たりの助成金総額 の上限額	400万円	100万円
単年度の助成金上限額	200万円	100万円
研究期間	最長2ヶ年	最長2ヶ年
助成対象費目 (1) 器具備品費 (2) 消耗品費 (3) 旅費 (4) 謝金 (5) その他	直接研究に使用する器具備品で1個、または一式10万円以上の固定資産 調査や試験研究に用いる各種材料、部品、薬品等 調査や試験研究のための交通費、宿泊費等 調査や試験研究のために臨時に雇った人の謝金等 機器・設備などの賃借料、通信費、その他	
助成の 対象とならない 費用	申請者本人および共同研究者の人件費 学会出席のための旅費 論文掲載料等	

最新情報は、当財団の公式ウェブサイトでご確認ください。

<https://foundation.tokyu.co.jp>

読者コーナー



「多摩川を下る！」を楽しみに読ませていただいています。
 「その6（第158）」で“今回のおみやげ”がありません。さかのぼってみたら「その5」からありませんでした。
 どうしてなのか、「その1」から読み直してみました。
 多摩川沿いは実に色々と変化していくのが分かりました。
 どんなことが分かったか。

- ①源流・上流では自然がいっぱいの中に、地元名産などの紹介が多く掲載されていました。
- ②下流近くになると人が作った自然（公園・史跡など）とともに美味しいものや名産が少なくなってきました。私は川崎に住んでいますが全く名産が無いわけではなく〇〇〇最中などあるのですが目立たない。街道沿いに無いからかな？
- ③多摩川は街道沿いの村から大都会へと流れ込んでいることがよくわかります。
 どこの川でも見られる景色でしようが、多摩川のように変化の大きな川は他にない気がします。
 それをこの「多摩川を下る！」は教えてくれました。
 羽田空港について万歳～～ではなく、是非支流沿いを走って掲載を続けて下さい。

「多摩川を楽しんでいる読者」より

“河童の川流れ体験教室 2019” に行ってきました！

原記令和元年 8月 11日

令和元年 8月 11日（日）、恒例になった“多摩川の河童の川流れ”がニヶ領せせらぎ館で開催されました！主催は、多摩川エコミュージアム、当日は、午前と午後の2回実施され、それぞれ十数組の親子が参加しました！参加者は、ライフジャケットとヘルメットを着用し、せせらぎ館下の宿河原堰から多摩高校裏の河川敷まで約1キロをゆっくり流れました！カヌー犬？が皆を見守っていましたヨ！？・・・



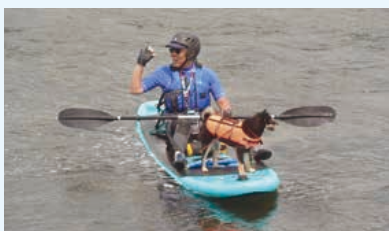
事前にライフジャケットやヘルメットの着用手順や注意事項の説明があり、参加者は熱心に聞き入っていました。



スタート地点で浮き方や流れ方を教えてもらい、3組に分かれて順番に流れていきました！



気温は30度を超えて汗だくですが、水の中は快適です！



多摩川のカヌー犬！？も河童たちを見守っていましたヨ！



到着地点では、子供たちはラフティングボートに乗り移り、大人たちは自力で岸が上がっていましたヨ！



流れ終わった後は、簡易シャワーで体を洗い、着替えました！

原 三千雄

読者コーナーでは、「財団だより多摩川」へのご意見・又は流域のイベントの紹介、多摩川でみかけたものなど楽しいおたよりや情報をお待ちしております。

公益財団法人 東急財団 環境部宛に MAIL でお送りください。

▶メール宛先

env@tkk.tokyu.co.jp

事務局より

東急財団発足から、4か月が経ちました。7月には新たな事務所に移転し、事務局員一同、新たな心持ちで仕事に取り組んでおります。ワタクシもワーク・ライフ・バランスならぬオフィス・リバー・バランスを念頭に、さらに行動半径を広げていきたいと思っております。読者の皆様、引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。(Z)



「財団だより多摩川」の表紙を飾ってくださる大野章氏の写真展が11月に開催されます。

展示期間中に大野氏の「多摩川野鳥サロン」も開催されます。是非、ニヶ領せせらぎ館までお越しください。(M)



■第10回 野鳥写真展 せせらぎ館周辺の野鳥たち

2019年11月1日(金)～11月30日(土)

場 所：ニヶ領せせらぎ館 1階

■「多摩川野鳥サロン」

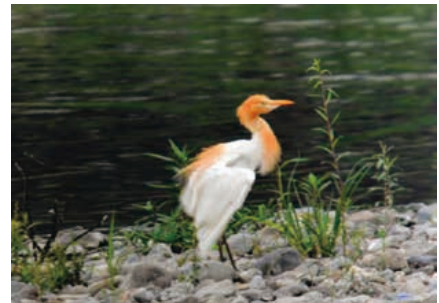
2019年11月16日(土) 13時～15時

場 所：ニヶ領せせらぎ館 2階会議室

会 費：500円(資料・お茶代)

(高校生以下は無料です)

詳細は <http://www.seseragikan.com/>



- 発行日 2019年9月1日
- 編集兼発行 公益財団法人 東急財団 環境部
【 東急財団は下記の住所に移転しました 】
〒150-8511
東京都渋谷区南平台町5番6号
TEL 03-3477-6301 FAX 03-3496-2965
公式ウェブサイト：<https://foundation.tokyu.co.jp/>

多摩川の未来、 一緒に作りませんか？

当財団は、1975年から毎年、多摩川とその流域の
環境浄化・保全のための調査、試験研究や活動のお手伝いをしてきました。
2020年度は、次の要領により助成の申請を受け付けます。

助成の対象となるテーマ

- 産業活動または住生活と、多摩川とその流域の関係 ●
 - 廃棄物などによる多摩川の汚染の防除 ●
 - 多摩川とその流域での水の利用 ●
 - 多摩川を取り巻く自然環境の保全、回復 ●
- 多摩川とその流域での環境保全、文化創造に寄与するもの ●

助成期間 2020年4月から1年間 または 2年間

助成上限額 学術研究 年額 200万円 総額 400万円 / 一般研究 総額 100万円

締切 2020年1月20日(月)

応募方法など詳細は、公式ウェブサイトをご覧ください。

東急財団

検索



お問い合わせ

TEL: 03-3477-6301

2020年度

多摩川の環境に関する 研究・活動費用を助成します

公益財団法人 東急財団